

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	生徒指導論 (中・高)		
担当者(Instructors)	竹田 安宏	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	1	必修・選択(Required / selection)	必修

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)			
<p>生徒指導の考え方と指導の在り方をテーマとする。教育課程における生徒指導の意義や原理を理解し、学級・学年・学校における生徒指導の考え方と指導の進め方を理解する。生徒が自立できるよう他の教職員や関係機関との連携に必要な知識・技能や素養を身につける。本授業は、学校教育目標を達成する基盤となる生徒指導の意義と目的について理解する。発達段階に即した生徒の生活意識と現状を理解し、前提となる指導観の学習をする。個別の課題を抱える個々の生徒への指導、様々な問題行動への対応について当事者と他者の視点から組織的に生徒指導上の在り方を理解する。</p>			

■ 授業形態・授業の方法 (Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義及び必要に応じてグループワークを用いる。

■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	本授業の概要：授業計画、授業方針等、生徒指導の位置づけ、校務分掌上の立場や役割	本講義の目的を確認する。	<input type="checkbox"/>
第2回	各教科や特別活動における生徒指導の意義や重要性の理解：(法令上の位置づけを含む)	生徒指導と教育課程の関係について理解する。 生徒指導の意義と役割について理解する。	<input type="checkbox"/>
第3回	中学・高校における集団指導・個別指導の方法と原理	校種間の集団指導及び個別指導の在り方を理解する。	<input type="checkbox"/>
第4回	生徒指導体制と教育相談体制の違い、学校の指導方針等に基づいた組織的な取り組み	生徒指導体制及び教育相談体制の関連を理解する。 生徒指導体制及び教育相談体制の意義について理解する。	<input type="checkbox"/>
第5回	生徒指導における望ましい場や機会の設定の在り方、生活習慣の在り方や規範意識の醸成等	生徒指導における望ましいあり方について理解する。	<input type="checkbox"/>
第6回	校則・懲戒(高校は停学、退学を含む)・体罰等、生徒指導と法令との関係	校則、懲戒(高校は停学、退学を含む)、体罰など生徒指導と法令との関係を学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第7回	生徒指導に関する事例研究：(暴力行為、いじめ、不登校などの対応の視点)	昨今の生徒指導に関する課題の事例から対応の仕方や解決方法を学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第8回	今日の生徒指導上の課題、関係機関との連携の在り方、本授業のまとめ	学校における生徒指導の在り方・考え方についてまとめる。	<input type="checkbox"/>
第9回			<input type="checkbox"/>
第10回			<input type="checkbox"/>
第11回			<input type="checkbox"/>
第12回			<input type="checkbox"/>
第13回			<input type="checkbox"/>
第14回			<input type="checkbox"/>
第15回			<input type="checkbox"/>

■ 授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)			

事前学習 → 講義で学習する内容と課題を示し、事前学習においてテキストを熟読し(2時間程度)、「分かったこと」、「疑問点」などを当該講義までに明らかにしておく。事後学習 → 当該講義の後半部分に実施する「振り返り小レポート」を学習のまとめごとにとまとめる(2時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回の講義の「振り返り小レポート」の内容を評価し、学生からの質問事項や理解できていない事項を受講生全体で共有する。必要に応じて個別に対応する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◆ 教職課程	日常的な生徒支援や状況に応じた生徒対応を述べることができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			20%	80%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の授業に提出する小レポート(50%)、課題レポート(30%)

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	文部科学省 生徒指導提要 教育図書株式会社	978-4-87730-274-0
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		